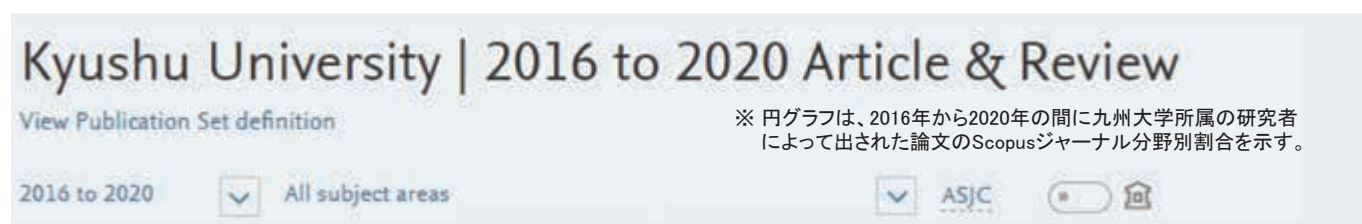
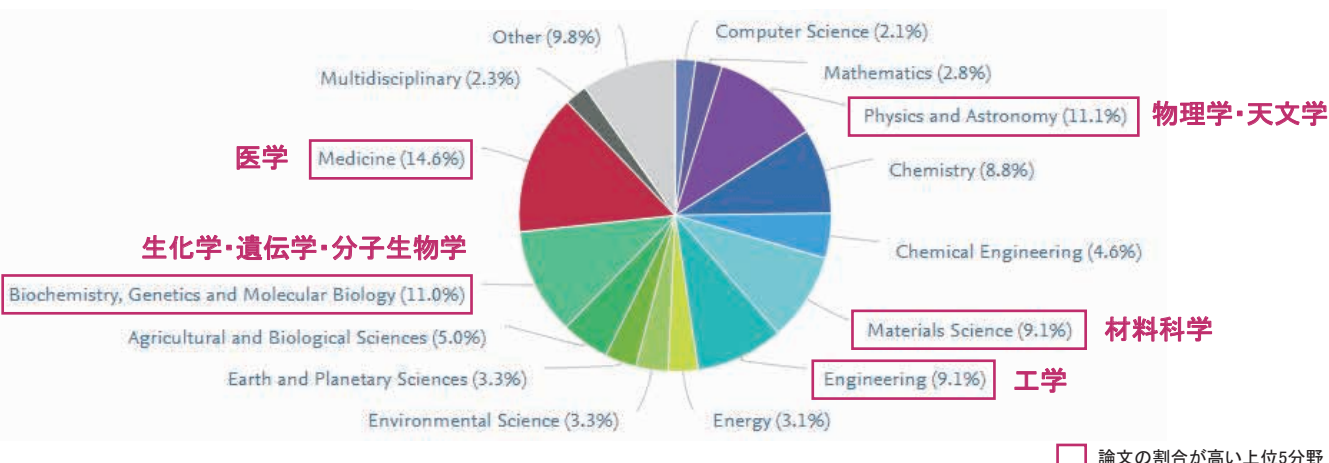


9. 研究

9-1. ジャーナル分類分野に基づいた本学全体の傾向



Overall research performance



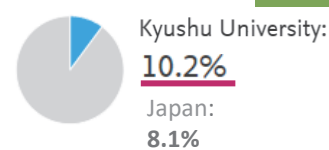
Performance indicators

Outputs in Top Citation Percentiles ①

Publications in top 10% most cited worldwide

☒ Show as field-weighted

トップ10%補正論文

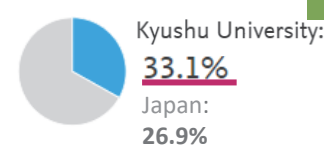


Publications in Top Journal Percentiles ①

Publications in top 10% journals

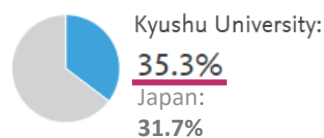
by CiteScore Percentile ☒

トップ10%ジャーナル掲載論文



International Collaboration ①

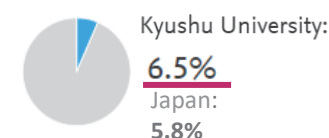
Publications co-authored with Institutions in other countries/regions



国際共著論文

Academic-Corporate Collaboration ①

Publications with both academic and corporate affiliations



産学共著論文

九州大学
日本平均

(※1) FWCI (Field-weighted Citation Impact): 当該文献の被引用数を、同じ出版年・同じ分野・同じ文献タイプの文献の世界平均で割ったもの。

FWCIが1以上ということは、平均インパクトが世界平均以上ということを意味する。

論文指標の抽出条件

文献タイプ: Articles and reviews、ジャーナル評価指標: CiteScore Percentile、自己引用: 含む、分野補正: TOP10%補正論文 有; 国際共著論文 無

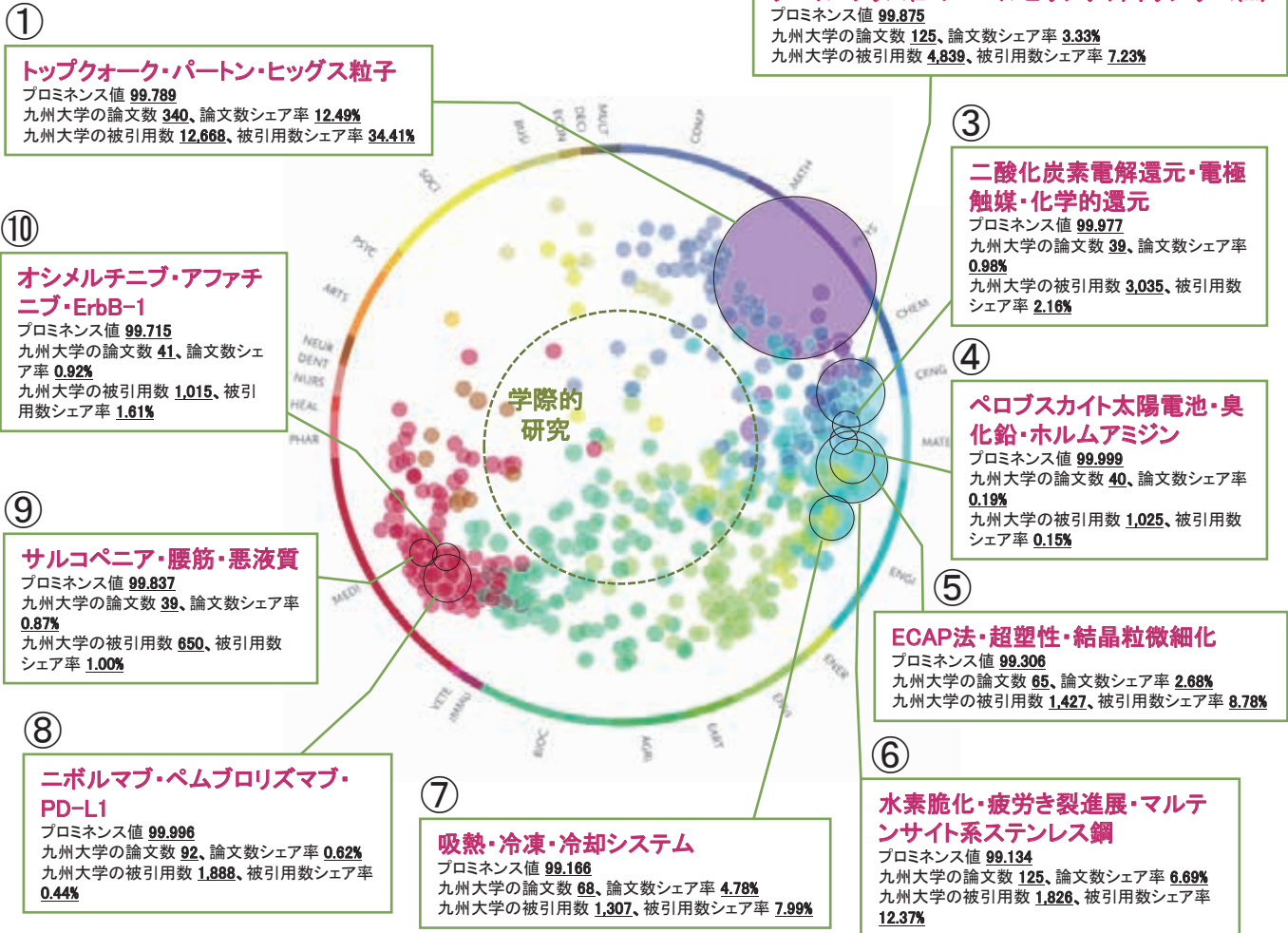
出典: Elsevier 社製「SciVal」より(2021年9月現在)

9-1. ジャーナル分類分野に基づいた本学全体の傾向(つづき)

トピックプロミネンスー論文の引用関係に基づいた大学の強み研究分析ー

プロミネンス上位1%のトピック (2016-2020)

①～⑩はプロミネンス上位1%のトピックの内、論文数の多い上位10トピック
これらのトピックは本学の論文数が多く、本学の中でも活発な研究分野と言える。



・ Topic Prominence 機能の概要
Scopusの文献を引用リンクに基づいて約97,000のトピックにクラスタリングし、Prominenceによってランク付けしたものです。新指標Prominenceは、直近の文献の被引用数、表示回数、注目度を示します。Prominenceは、助成金と相関関係があり、研究者と研究管理者が助成金が増える可能性が高いトピックを特定するのを支援します。円の中心にあるトピックほど、学際的なトピックと言えます。
(「Elsevier社「クイックレファレンスガイド 2018年1月」より抜粋)
2016年から2020年の間に出版された九州大学の論文のうち、8,002の研究分野が注目度の高いトピックとして出現している。

- ◆見方◆
- ・ 外側の円周：Scopusで用いられている研究分野(ASJCの27中分類)を色別に表示。
 - ・ 小さい円：各トピック。
 - ・ 小さい円の大きさ：各トピックを構成する論文の数を表す。
 - ・ 小さい円の色：トピックを構成する論文の分野のうち、割合が最も大きい分野を円周上の分野の色で示したものです。
 - ・ 小さい円の位置：トピックを構成する論文の分野の割合に基づいて配置されている。学際的なものは中心に位置する傾向にある。

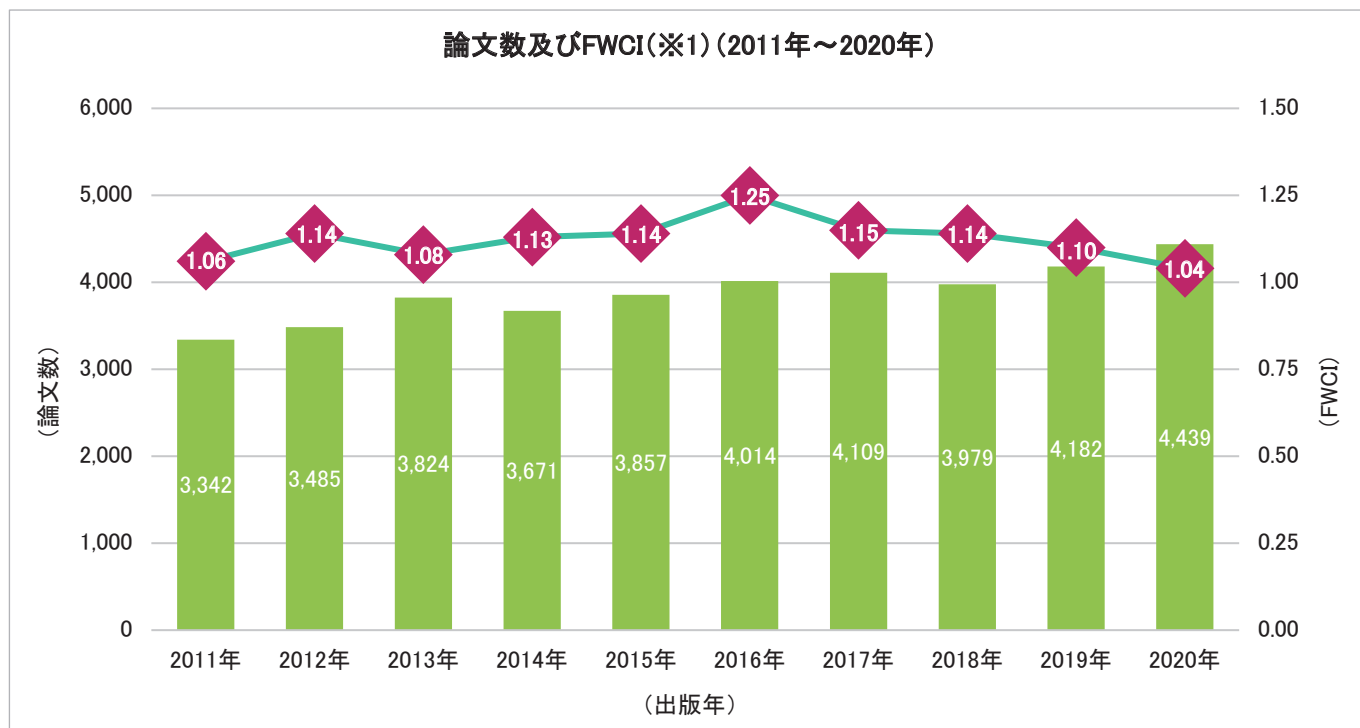
論文指標の抽出条件
文献タイプ：Articles and reviews、自己引用：含む

出典：Elsevier社製「SciVal」より(2021年9月現在)

9-2. 論文の量と質についての比較

■論文数及びFWCIの推移

◆九州大学◆



◆RU11(※2)での比較◆

【Scholarly Output (論文数)】

順位	大学名	本数
1	東京大	48,971
2	京都大	34,911
3	大阪大	26,556
4	東北大	26,078
5	九州大	20,723
6	名古屋大	20,280
7	北海道大	19,125
8	筑波大	14,132
9	東京工業大	14,044
10	慶應義塾大	12,624

(2016～2020)

【Citation Count (被引用数)】

順位	大学名	被引用数	論文あたりの平均被引用数
1	東京大	717,877	14.7
2	京都大	511,390	14.6
3	大阪大	317,949	12.0
4	東北大	313,769	12.0
5	名古屋大	253,679	12.5
6	九州大	245,073	11.8
7	北海道大	210,542	11.0
8	東京工業大	175,182	12.5
9	筑波大	174,274	12.3
10	慶應義塾大	157,346	12.5

(2016～2020)

【FWCI(論文のインパクト)】

順位	大学名	FWCI
1	東京大	1.40
2	京都大	1.38
3	筑波大	1.30
4	慶應義塾大	1.21
5	名古屋大	1.20
6	九州大	1.14
7	東京工業大	1.13
7	大阪大	1.13
7	早稲田大	1.13
10	東北大	1.11

(2016～2020)

(※1) FWCI (Field-weighted Citation Impact) : 当該文献の被引用数を、同じ出版年・同じ分野・同じ文献タイプの文献の世界平均で割ったもの。
FWCIが1以上ということは、平均インパクトが世界平均以上ということを意味する。

(※2) RU11(学術研究懇談会)

国立・私立の設置形態を超えた11の大学(北海道大、東北大、筑波大、東京大、早稲田大、慶應義塾大、東京工業大、名古屋大、京都大、大阪大、九州大)による学術の発展を目的としたコンソーシアムである。

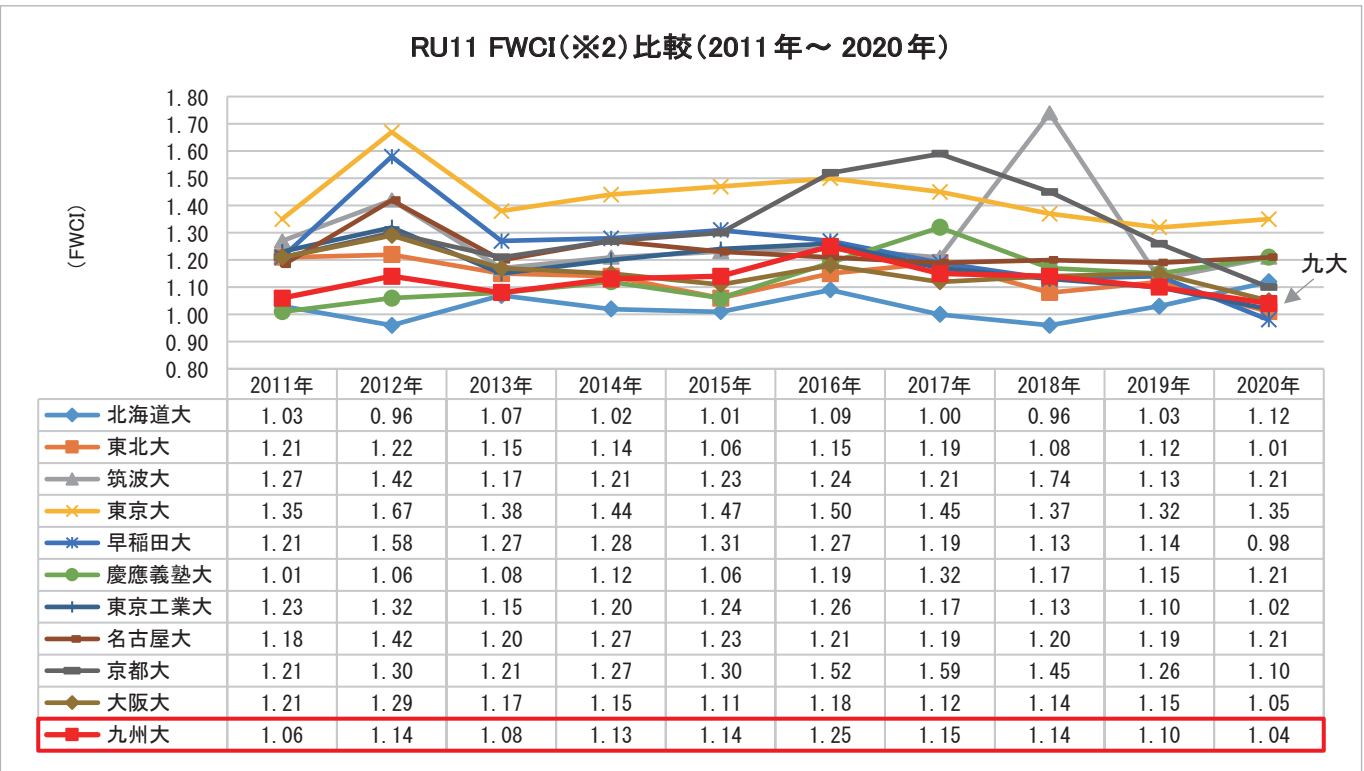
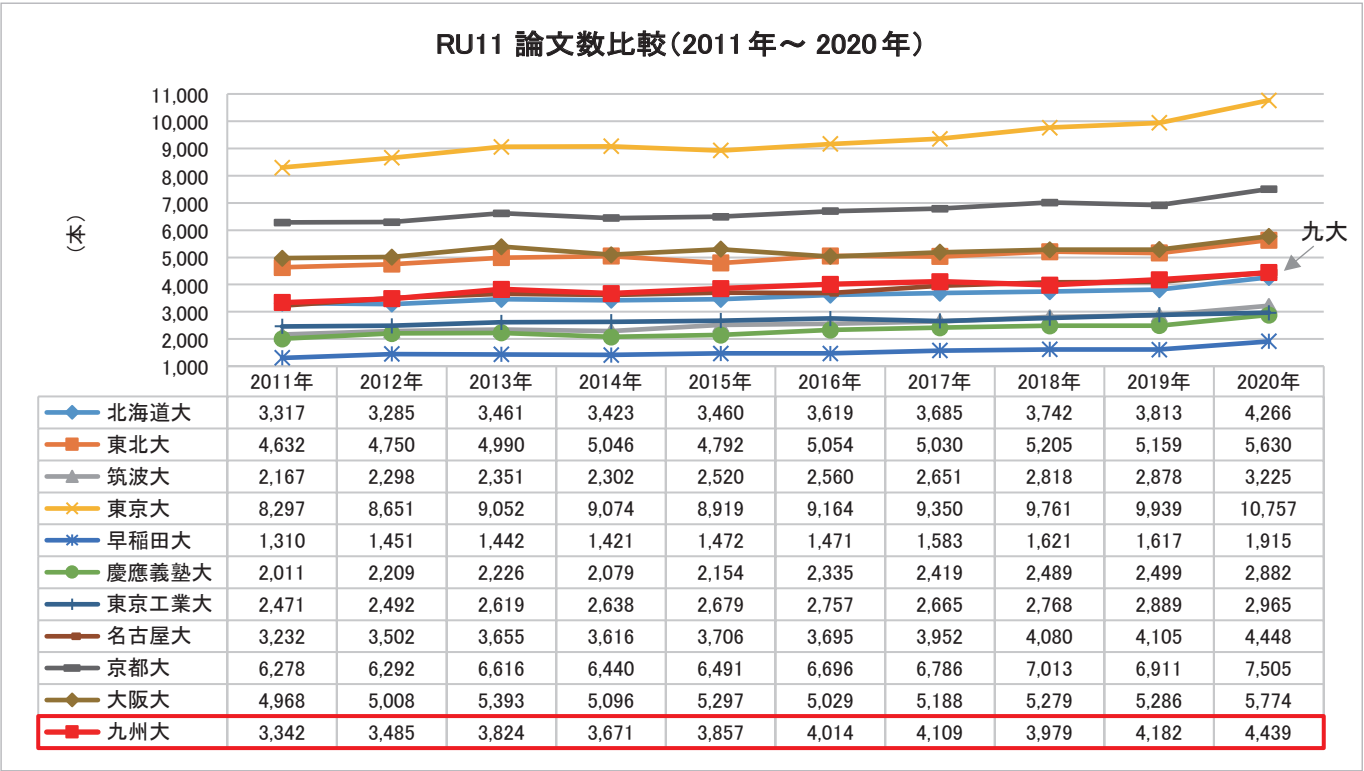
論文指標の抽出条件

文献タイプ : Articles and reviews、自己引用 : 含む

出典 : Elsevier 社製「SciVal」より(2021年9月現在)

9-2. 論文の量と質についての比較(つづき)

◆RU11(※1)での比較◆



(※1) RU11(学術研究懇談会)

国立・私立の設置形態を超えた11の大学(北海道大、東北大、筑波大、東京大、早稲田大、慶應義塾大、東京工業大、名古屋大、京都大、大阪大、九州大)による学術の発展を目的としたコンソーシアムである。

(※2) FWCi(Field-weighted Citation Impact) : 当該文献の被引用数を、同じ出版年・同じ分野・同じ文献タイプの文献の世界平均で割ったもの。

FWCiが1以上ということは、平均インパクトが世界平均以上ということを意味する。

論文指標の抽出条件

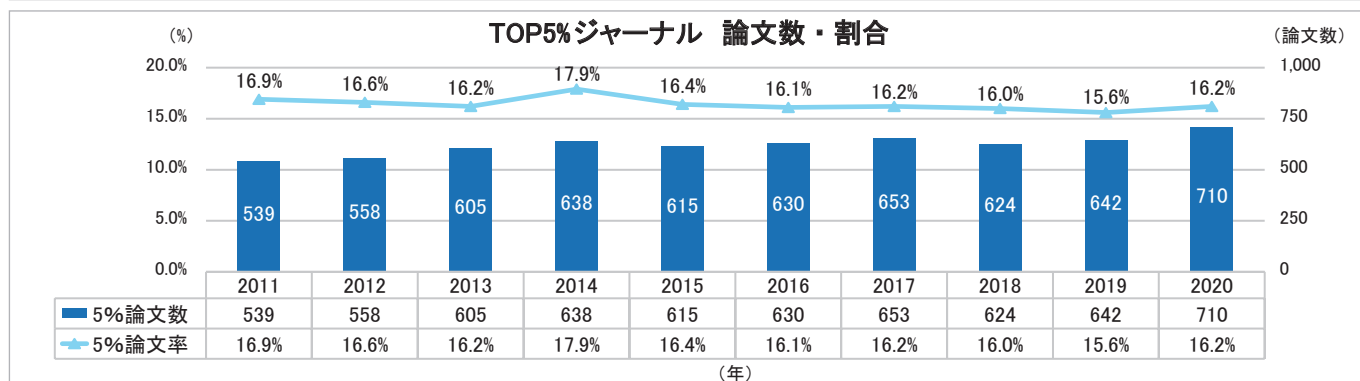
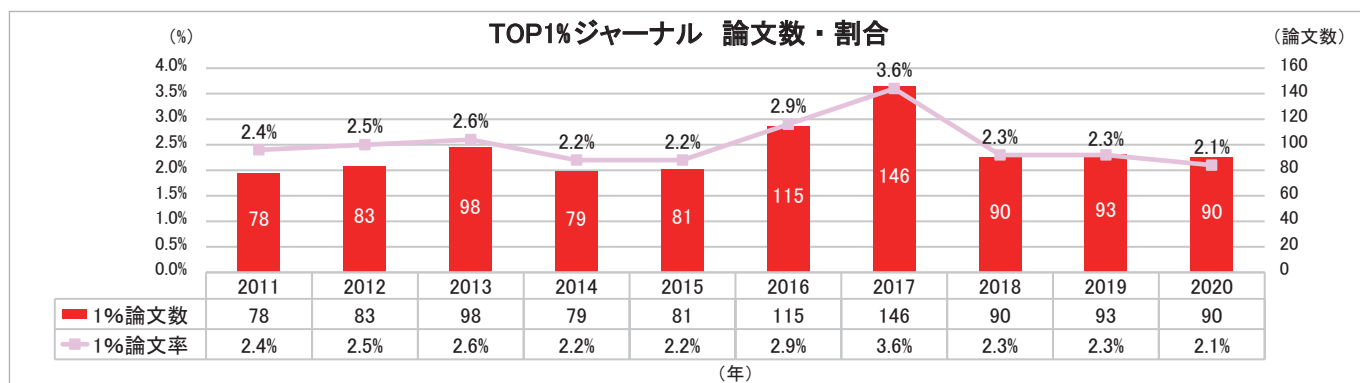
文献タイプ : Articles and reviews、自己引用 : 含む

出典 : Elsevier 社製「SciVal」より(2021年9月現在)

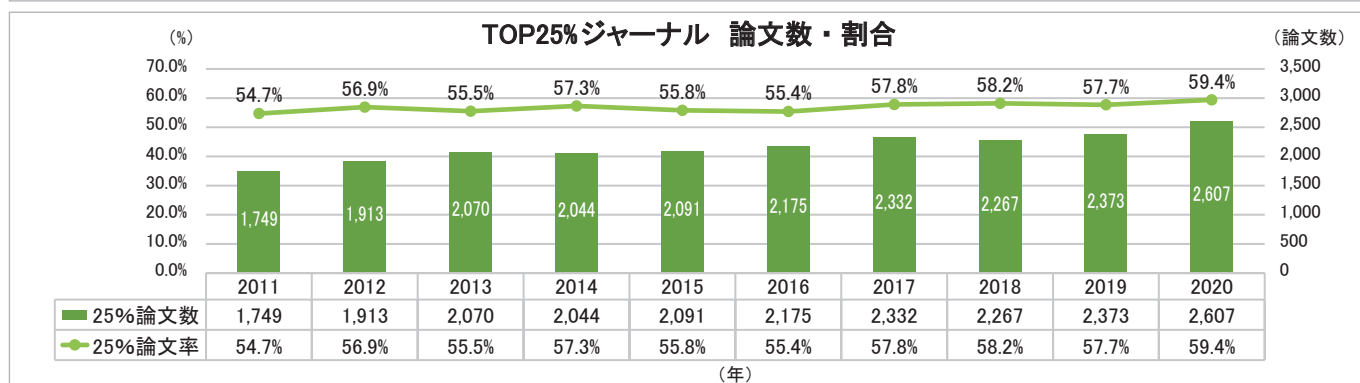
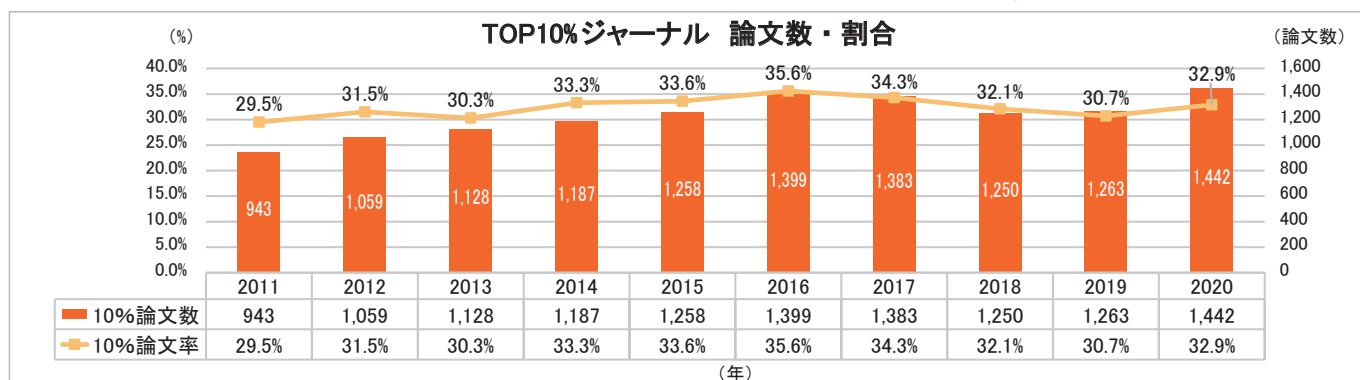
9-2. 論文の量と質についての比較 (つづき)

■世界トップのジャーナルに掲載された論文数と割合推移

◆九州大学◆



★指定国立大学法人構想の成果指標(KPI)です



・トップ x %ジャーナルに掲載された論文数と割合とは・・・

被引用数ベースで世界トップ%ジャーナルに掲載された論文数と割合。Scopusにおける各年の被引用数を元に、上位1%、5%、10%、25%に含まれるジャーナルに掲載された論文数・割合を示すもの。

論文指標の抽出条件

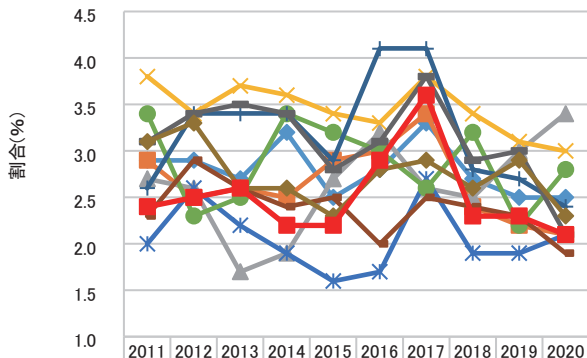
文献タイプ：Articles and reviews、ジャーナル評価指標：CiteScore Percentile

出典：Elsevier社製「SciVal」より(2021年9月現在)

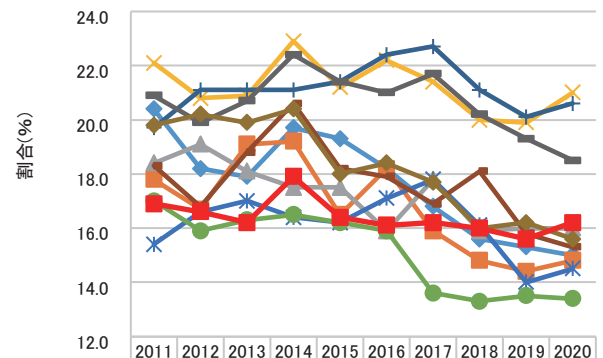
9-2. 論文の量と質についての比較(つづき)

◆RU11(※1)での比較◆

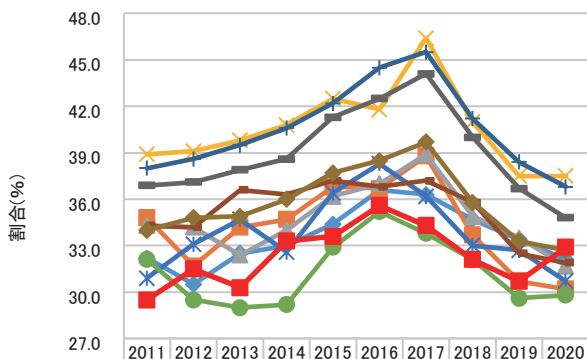
TOP 1% ジャーナルに含まれる論文の割合



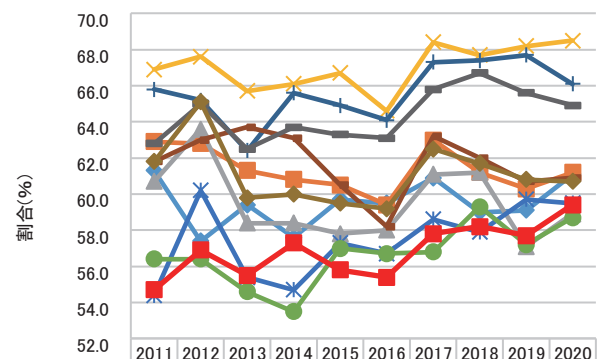
TOP 5% ジャーナルに含まれる論文の割合



TOP 10% ジャーナルに含まれる論文の割合



TOP 25% ジャーナルに含まれる論文の割合



(※1) RU11(学術研究懇談会)

国立・私立の設置形態を超えた11の大学(北海道大、東北大、筑波大、東京大、早稲田大、慶應義塾大、東京工業大、名古屋大、京都大、大阪大、九州大)による学術の発展を目的としたコンソーシアムである。

論文指標の抽出条件

文献タイプ: Articles and reviews、ジャーナル評価指標: CiteScore Percentile

出典: Elsevier 社製「SciVal」より(2021年9月現在)

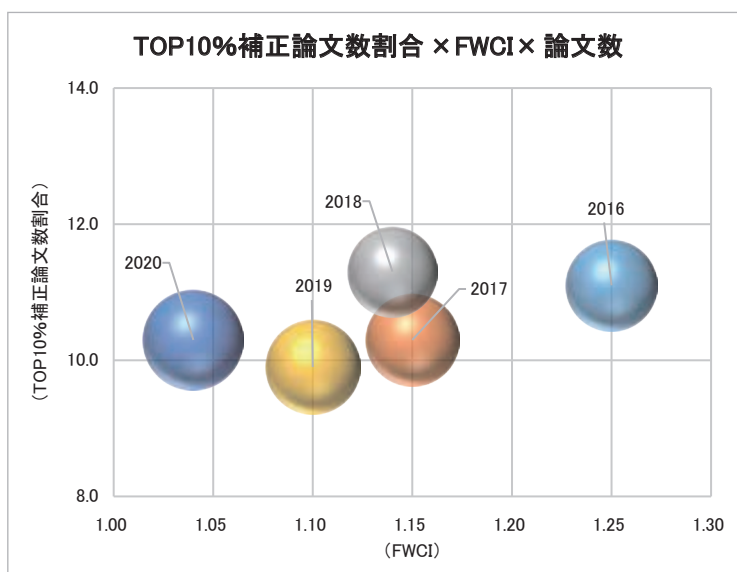
9-2. 論文の量と質についての比較(つづき)

■論文の量と質の総合比較

◆九州大学◆ (2016年～2020年)

本学のTOP10%補正論文数割合(※1)(縦軸)×FWCI(※2)(横軸)×論文数(バブル大きさ)

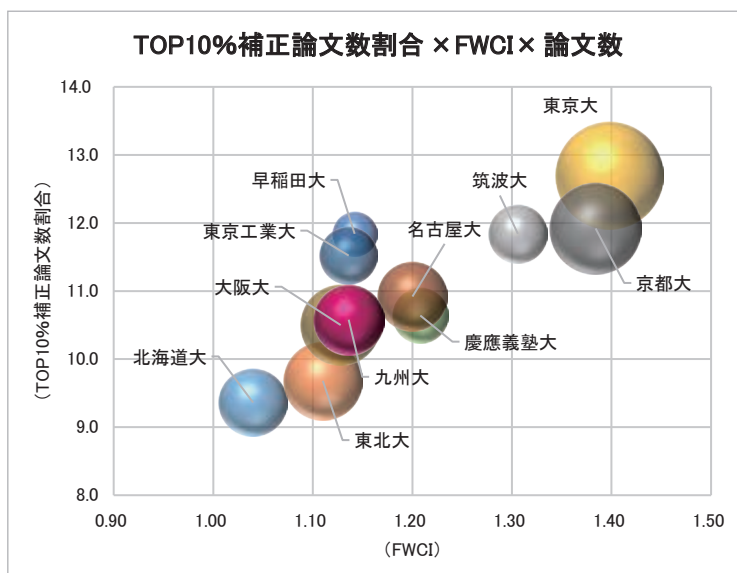
年	TOP10%補正論文数割合	FWCI	論文数
2016	11.1	1.25	4,014
2017	10.3	1.15	4,109
2018	11.3	1.14	3,979
2019	9.9	1.10	4,182
2020	10.3	1.04	4,439
平均	10.6	1.14	4,145



◆RU11(※3)での比較◆ (2016年～2020年の平均)

TOP10%補正論文数割合(縦軸)×FWCI(横軸)×論文数(バブル大きさ)

大学名	TOP10%補正論文数割合	FWCI	論文数
北海道大	9.4	1.04	3,825
東北大	9.7	1.11	5,216
筑波大	11.8	1.31	2,826
東京大	12.7	1.40	9,794
早稲田大	11.8	1.14	1,641
慶應義塾大	10.6	1.21	2,525
東京工業大	11.5	1.14	2,809
名古屋大	10.9	1.20	4,056
京都大	11.9	1.38	6,982
大阪大	10.5	1.13	5,311
九州大	10.6	1.14	4,145



(※1) TOP10%補正論文数割合

被引用ベースで世界トップに入る論文数(分野補正した値)の割合。Scopusにおける各年の被引用数をもとに上位10%に含まれる論文数の割合を示すもの。

(※2) FWCI(Field-weighted Citation Impact): 当該文献の被引用数を、同じ出版年・同じ分野・同じ文献タイプの文献の世界平均で割ったもの。FWCIが1以上ということは、平均インパクトが世界平均以上ということを意味する。

(※3) RU11(学術研究懇談会)

国立・私立の設置形態を超えた11の大学(北海道大、東北大、筑波大、東京大、早稲田大、慶應義塾大、東京工業大、名古屋大、京都大、大阪大、九州大)による学術の発展を目的としたコンソーシアムである。

論文指標の抽出条件

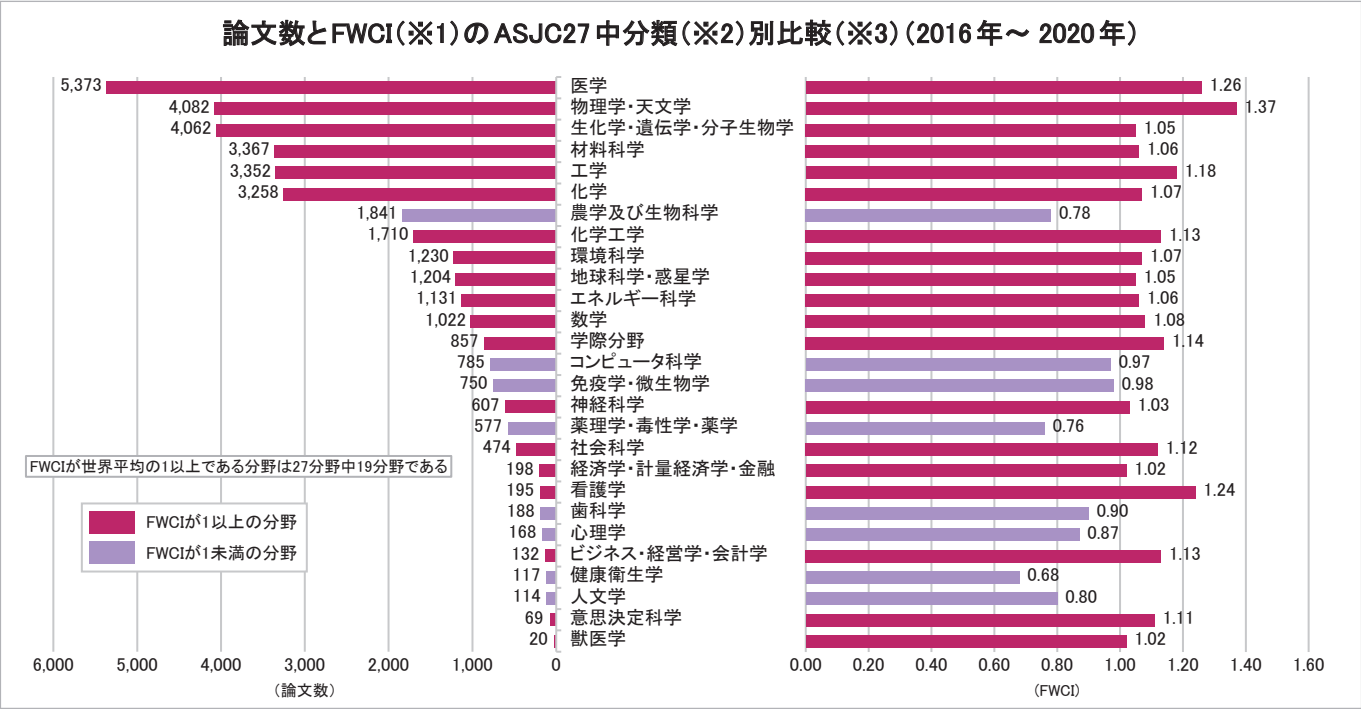
文献タイプ: Articles and reviews、自己引用: 含む、分野補正: 有

出典: Elsevier社製「SciVal」より(2021年9月現在)

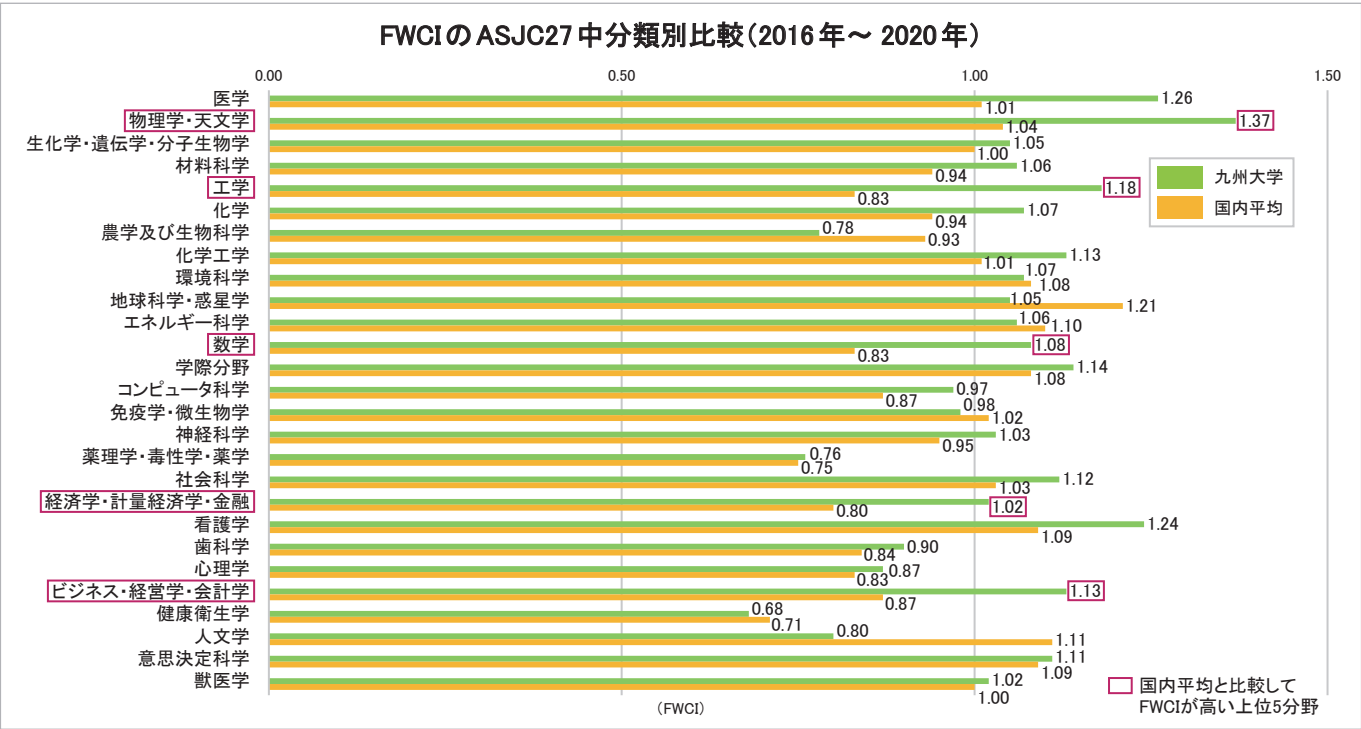
9-2. 論文の量と質についての比較(つづき)

■本学と国内平均の比較(ASJC27中分類別) — FWCI —

◆九州大学◆



◆国内平均と九州大学との比較◆



- (※1) FWCI (Field-weighted Citation Impact) : 当該文献の被引用数を、同じ出版年・同じ分野・同じ文献タイプの文献の世界平均で割ったもの。
FWCIが1以上ということは、平均インパクトが世界平均以上ということを意味する。
- (※2) ASJC27中分類
Scopusのジャーナル分類(ASJC: All Scopus Science Journal Classification)に基づく27の中分類。
- (※3) 論文数が多くFWCIが高いほど研究力に厚みがあること(大学の強み)を表す。また、論文数が少なくFWCIが高い場合は、研究力の高い特定の教員の存在を示す場合が多い。なお、特定の教員が巨大な研究者コミュニティに所属する場合は、論文数・FWCI共に値が高くなる場合が多い。

論文指標の抽出条件

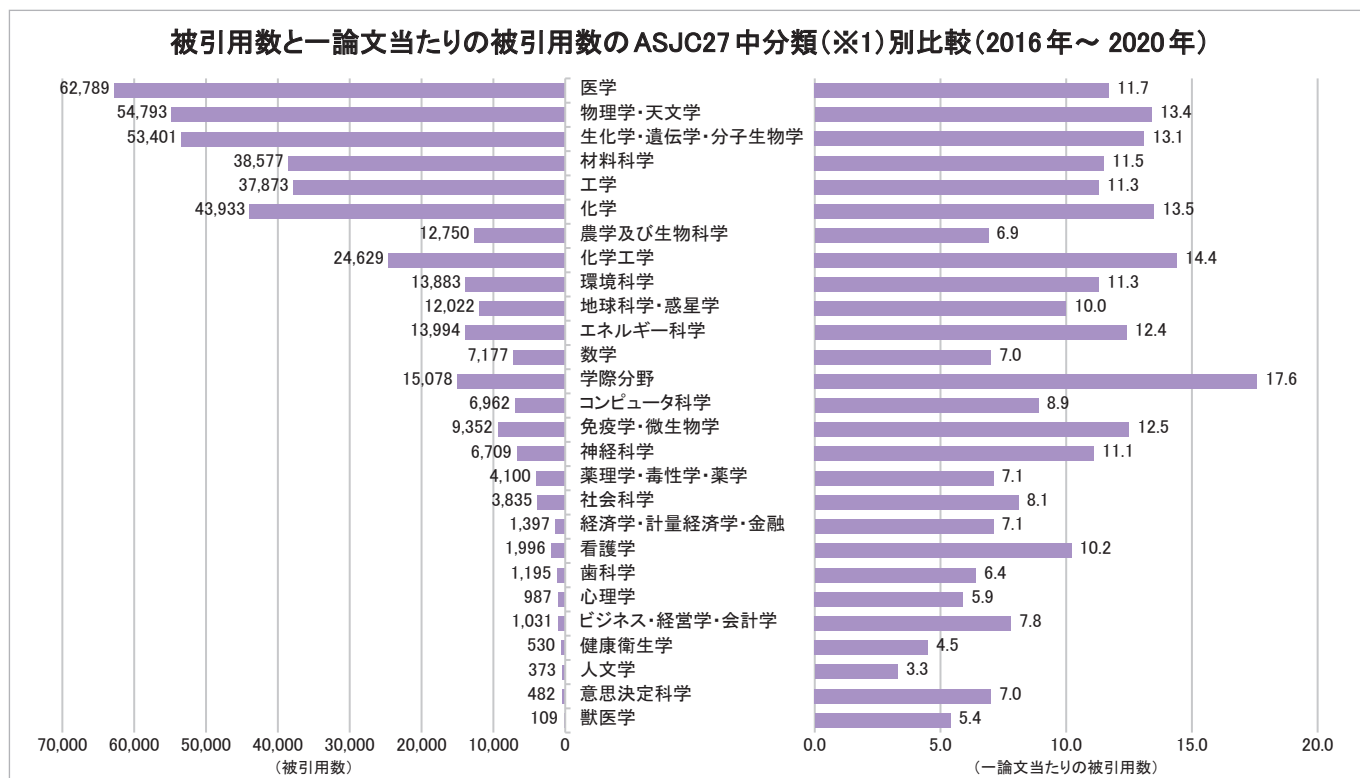
文献タイプ : Articles and reviews、自己引用 : 含む

出典 : Elsevier 社製「SciVal」より(2021年9月現在)

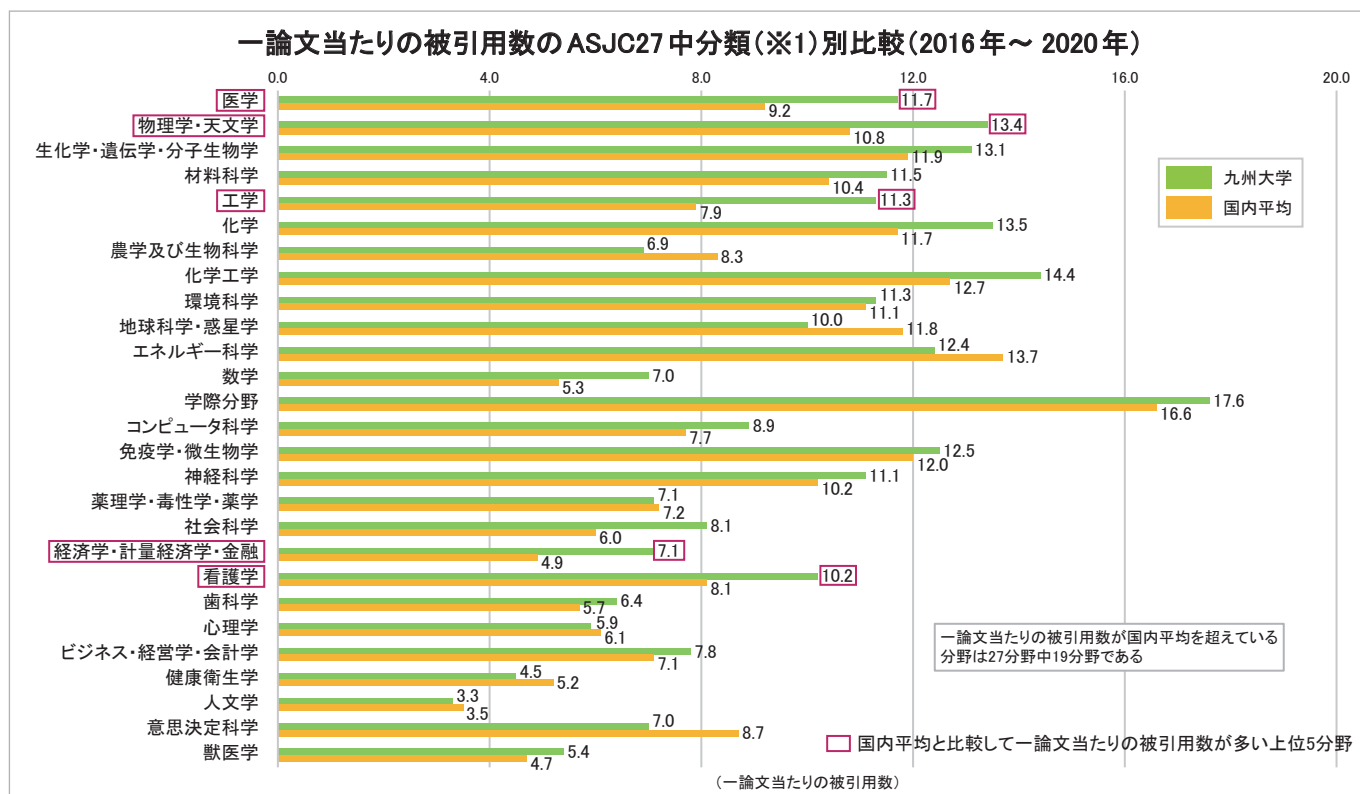
9-2. 論文の量と質についての比較 (つづき)

■ 本学と国内平均の比較 (ASJC27 中分類別) — 一論文当たりの被引用数 —

◆ 九州大学 ◆



◆ 国内平均と九州大学との比較 ◆



(※1) ASJC27 中分類

Scopus のジャーナル分類 (ASJC: All Scopus Science Journal Classification) に基づく 27 の中分類。

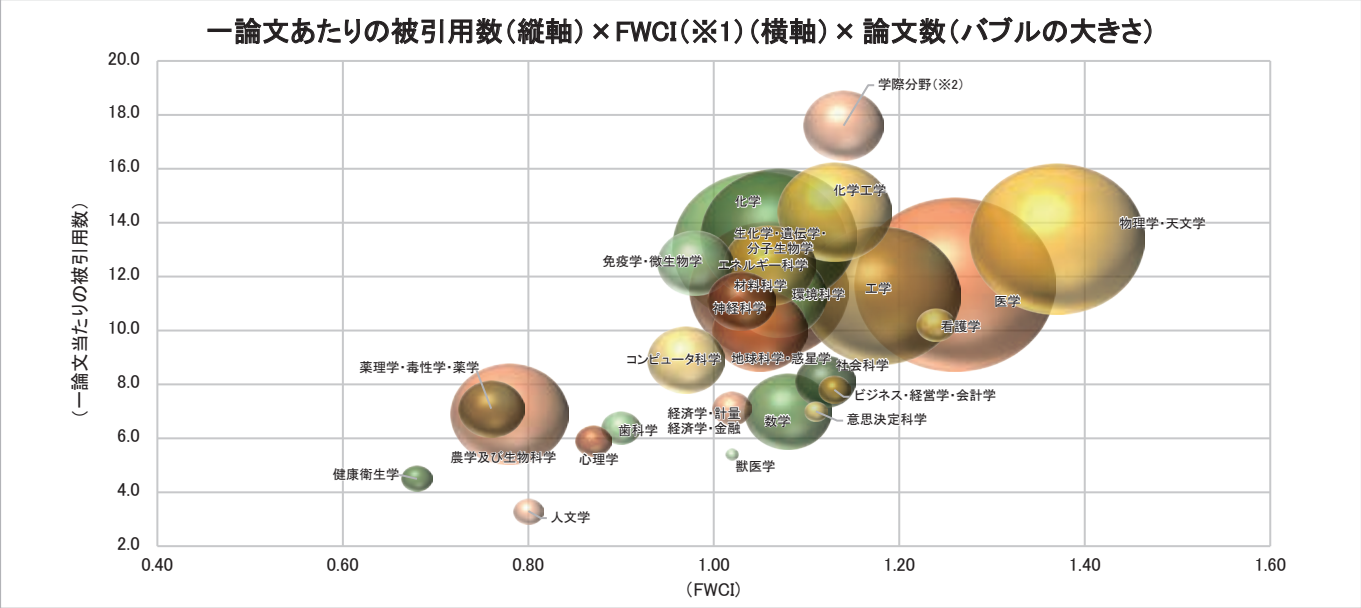
論文指標の抽出条件

文献タイプ: Articles and reviews、自己引用: 含む

出典: Elsevier 社製「SciVal」より (2021 年 9 月現在)

9-2. 論文の量と質についての比較(つづき)

■ 本学の論文の研究分野についての比較 (ASJC27 中分類別) (2016 年～2020 年)



■ 本学の論文の研究分野についての比較 (ASJC334 小分類別) (2016 年～2020 年)

【FWCIが高い上位10小分野(※3)】

FWCI順位	ASJC27 中分類(※4)	ASJC334 小分類(※4)	FWCI	論文数
1	Nursing (看護学)	Psychiatric Mental Health (精神医学的メンタルヘルス)	16.42	3
2	Medicine (医学)	General Medicine (医学(全般))	6.19	195
3	Engineering (工学)	Engineering (miscellaneous) (工学(その他))(※5)	3.52	201
4	Business, Management and Accounting (ビジネス、経営学、会計学)	Business and International Management (ビジネス・国際経営)	3.26	21
5	Physics and Astronomy (物理学、天文学)	Physics and Astronomy (miscellaneous) (物理学、天文学(その他))(※6)	3.14	389
6	Psychology (心理学)	Applied Psychology (応用心理学)	2.55	10
7	Veterinary (獣医学)	Equine (馬獣医学)	2.45	1
7	Veterinary (獣医学)	Small Animals (小型動物)	2.45	1
9	Nursing (看護学)	Advanced and Specialized Nursing (高度・特殊看護)	2.25	22
10	Medicine (医学)	Hepatology (肝胆膵医学)	2.21	149

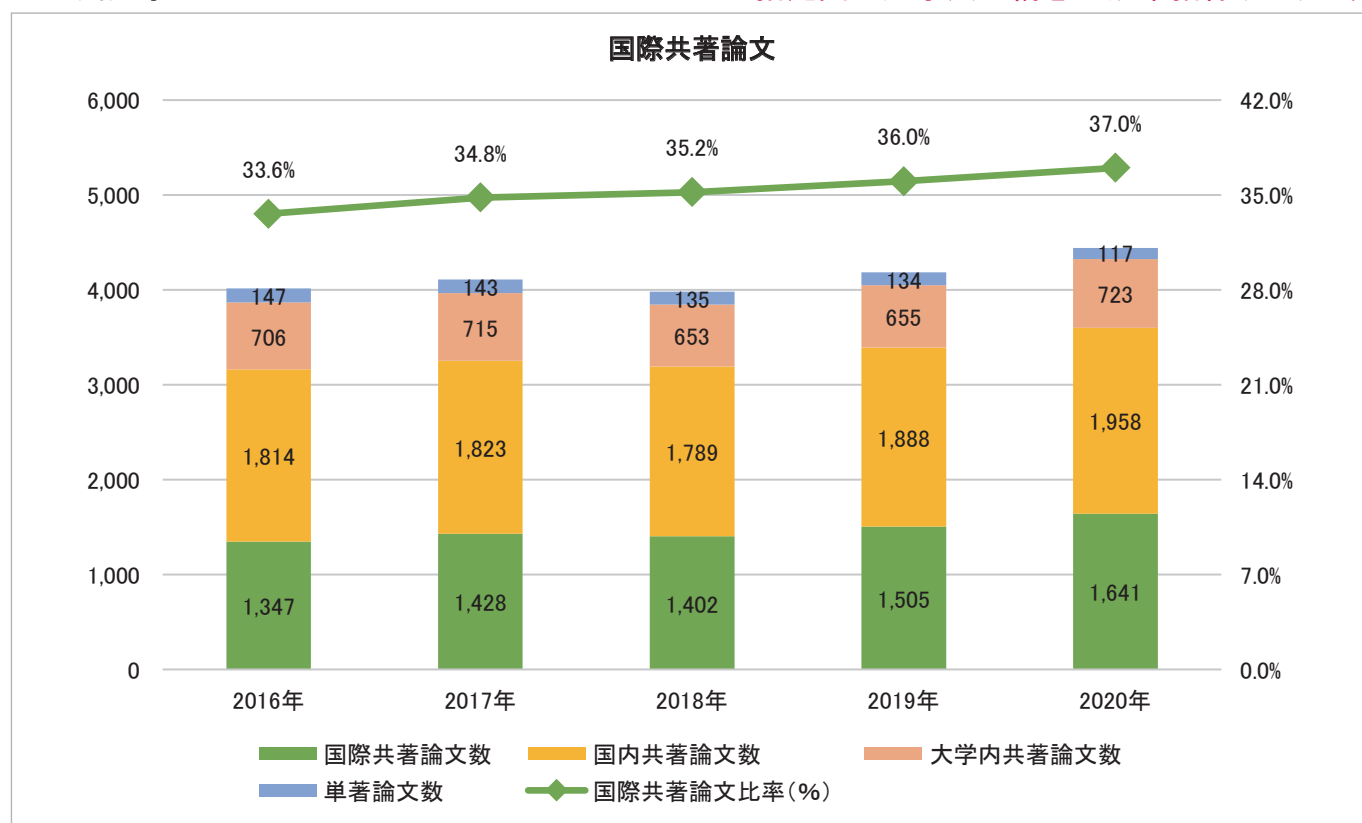
- (※1) FWCI (Field-weighted Citation Impact) : 当該文献の被引用数を、同じ出版年・同じ分野・同じ文献タイプの文献の世界平均で割ったもの。
FWCIが1以上ということは、平均インパクトが世界平均以上ということを意味する。
- (※2) 学際分野とは、「Nature」や「Science」のような総合学術雑誌に掲載された論文を示す。
- (※3) FWCIが世界平均1.0を超えている小分野は、全334分野中140分野である。FWCIが高く論文数が少ない分野は、研究力の高い特定の教員が存在する可能性がある。FWCIが高く論文数も多い分野は、研究力に厚みがあること(大学の強み)を示す。
- (※4) ASJC27 中分類、ASJC334 小分類
Scopusのジャーナル分類(ASJC: All Scopus Science Journal Classification)に基づく27の中分類と334の小分類。
翻訳協力 : 大学改革支援・学位授与機構。(中分類の翻訳はエルゼビア社による。)
- (※5) 工学(その他) : 次の項目以外の分野
航空宇宙工学、自動車工学、生体医工学、土木・構造工学、計算力学、制御・システム工学、電気電子工学、管理工学・生産工学、機械工学、材料力学、海洋工学、安全・リスク・信頼性・品質管理、メディア工学、建設工学、建築学
- (※6) 物理学・天文学(その他) : 次の項目以外の分野
音響学及び超音波学、天文学及び宇宙物理学、凝縮系物理学、計測機器、核物理学・高エネルギー物理学、原子分子物理学及び光学、放射線、統計物理学及び非線形物理学、表面・界面

論文指標の抽出条件
文献タイプ : Articles and reviews、自己引用 : 含む
出典 : Elsevier 社製「SciVal」より(2021 年 9 月現在)

9-3. 国際共著論文

◆九州大学◆

★指定国立大学法人構想の成果指標(KPI)です



◆研究院別◆ (2016年～2020年)

順位	研究院	国際共著論文数(合計)(本)	国際共著論文比率(平均)(%)
1	工学研究院	1,201	34.1
2	理学院	1,051	58.0
3	農学院	706	41.6
4	医学研究院	637	15.8
5	総合理工学研究院	403	42.8
6	システム情報科学研究院	329	37.1
7	薬学院	166	26.7
8	歯学院	157	23.6
9	比較社会文化研究院	70	49.0
10	芸術工学研究院	57	21.9
11	人間環境学研究院	50	36.5
12	経済学研究院	42	34.2
13	数理学研究院	37	23.6
14	言語文化研究院	5	21.7
15	法学研究院	4	50.0
16	人文科学研究院	3	10.7

論文指標の抽出条件

文献タイプ: Articles and reviews、分野補正: 無

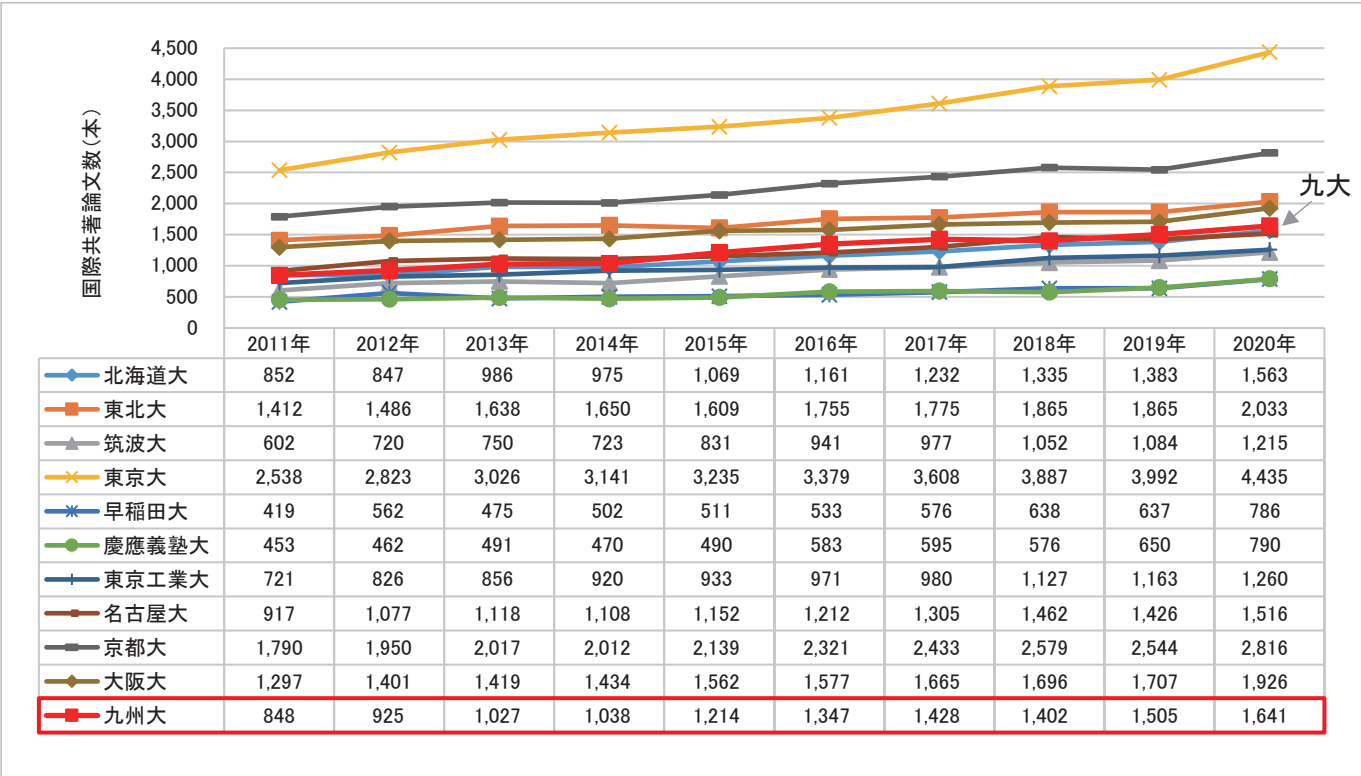
・研究院別国際共著論文数: 2021年4月1日時点在籍教員の国際共著論文を集計。(他機関在籍時の論文も含む)

出典: Elsevier社製「SciVal」より(2021年9月現在)

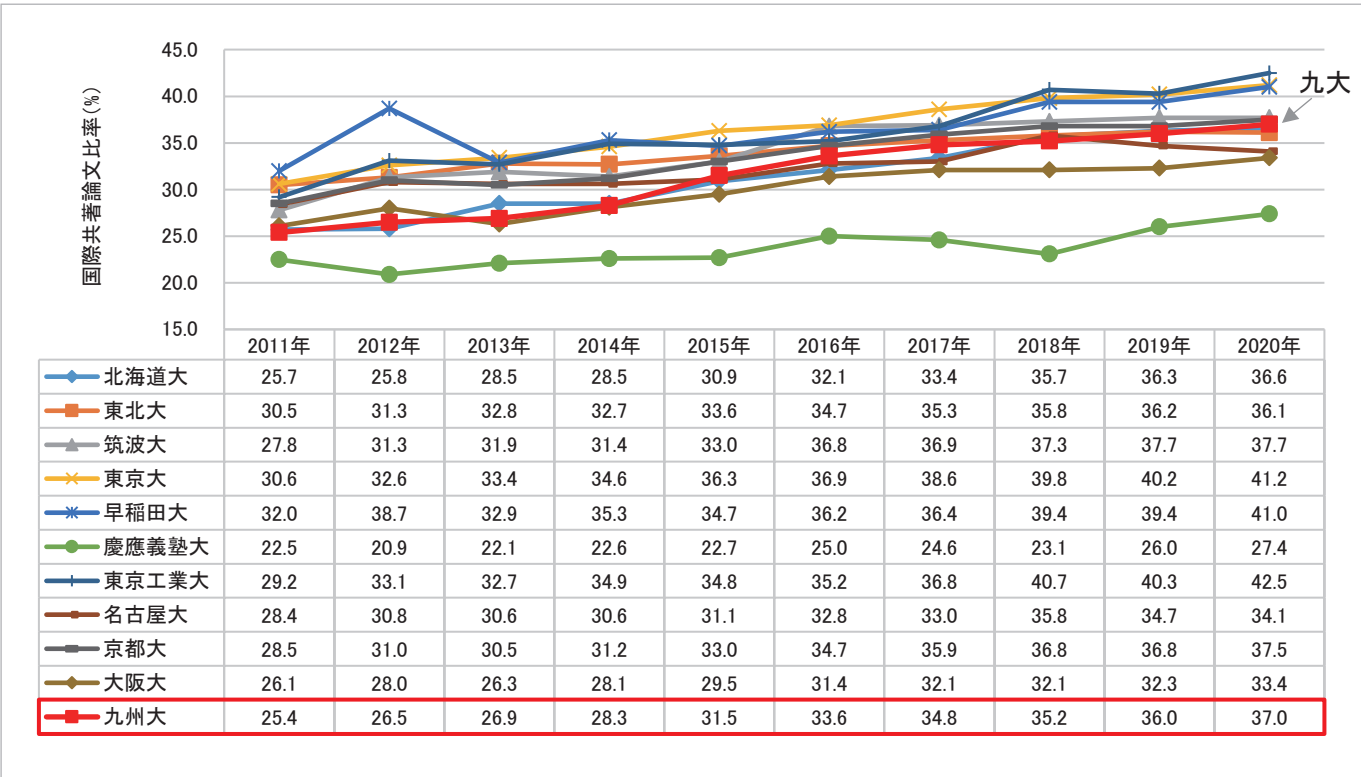
9-3. 国際共著論文(つづき)

◆RU11(※1)での比較◆ (2011年～2020年)

国際共著論文数



国際共著論文比率



(※1) RU11(学術研究懇談会)

国立・私立の設置形態を超えた11の大学(北海道大、東北大、筑波大、東京大、早稲田大、慶應義塾大、東京工業大、名古屋大、京都大、大阪大、九州大)による学術の発展を目的としたコンソーシアムである。

論文指標の抽出条件

文献タイプ: Articles and reviews、分野補正: 無

出典: Elsevier社製「SciVal」より(2021年9月現在)

9-3. 国際共著論文(つづき)

■世界各機関との国際共著状況(2016~2020年)

北アメリカ

677機関、2,888本の共著論文



ヨーロッパ

1,415機関、2,966本の共著論文

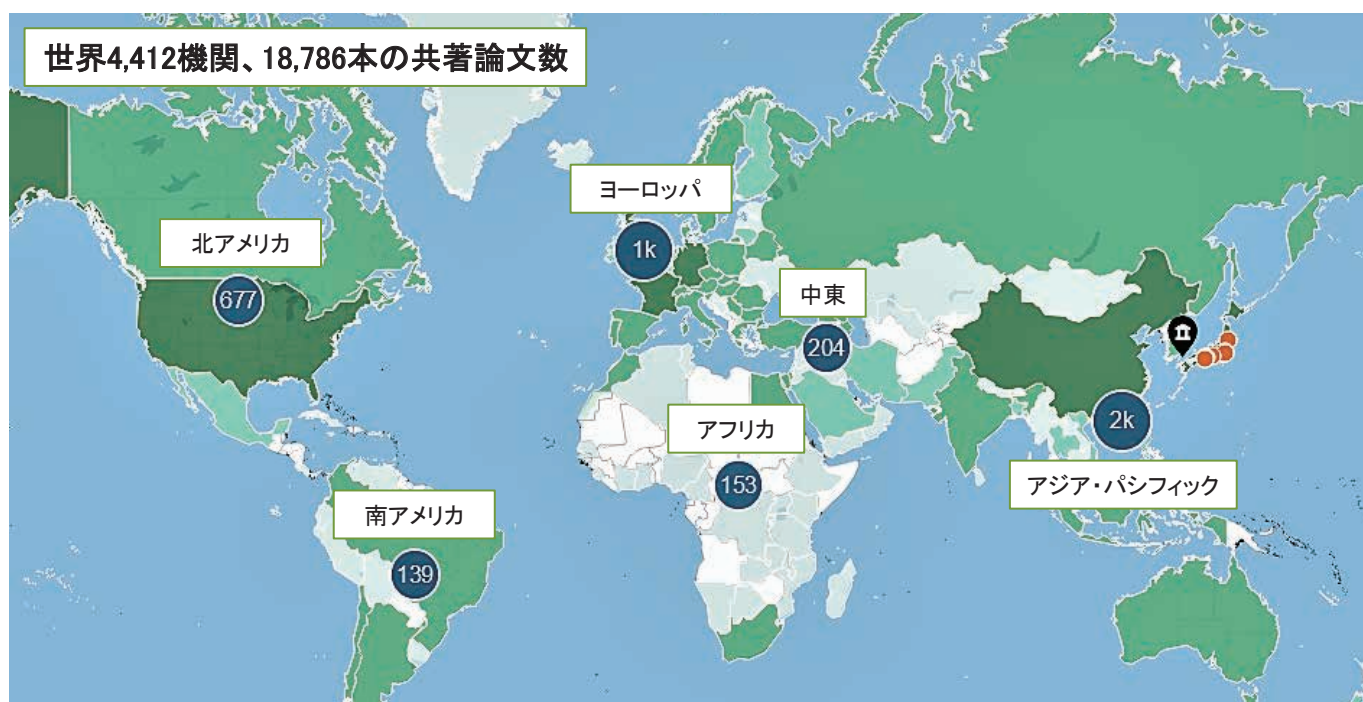


アジア・パシフィック

1,824機関、16,764本の共著論文



世界4,412機関、18,786本の共著論文数



南アメリカ

139機関、663本の共著論文



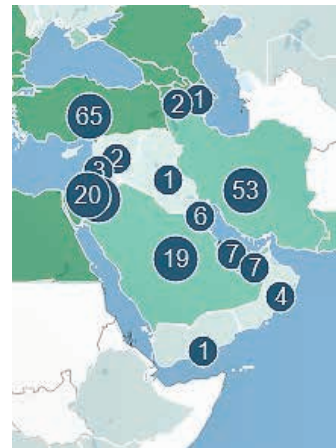
アフリカ

153機関、1,155本の共著論文



中東

204機関、873本の共著論文



・各地図上の数字は、機関数を表すものである。

論文指標の抽出条件

文献タイプ : All

出典 : Elsevier 社製「SciVal」より(2021年9月現在)